

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力調査で各学年、国語科・算数科ともに48ポイント以上

3. 指標にむけての取組

- 単元ごとの通過率を分析し、授業づくりに生かす。
- 「かく活動」を位置付け、意見交流に生かす授業展開の工夫する。
- 重要単元を精選し、習熟度別授業を行う。
- 家庭学習の目的と内容を見直し、定着を図る。

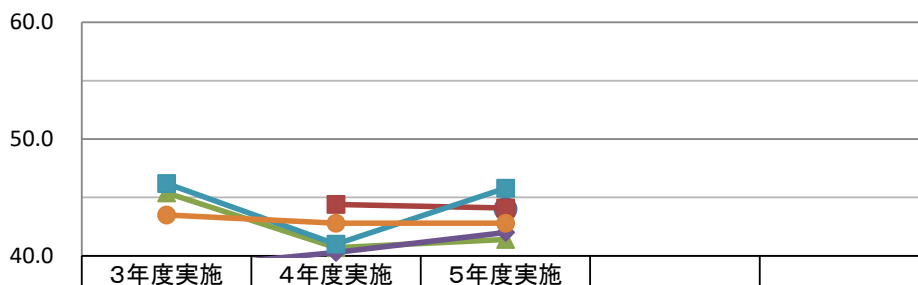
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)2年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度		
本校(A)	43.4	42.3	43.3		
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5		
(A)-(B)	-3.6	-4.9	-5.2	0.0	0.0
全国値との差 (A)-(50)	-6.6	-7.7	-6.7	-50.0	-50.0

各学年の標準スコアの推移



	3年度実施	4年度実施	5年度実施		
● 5年度1年生			44.0		
■ 5年度2年生		44.4	44.1		
▲ 5年度3年生	45.4	40.7	41.4		
◆ 5年度4年生	38.9	40.3	42.0		
■ 5年度5年生	46.2	41.0	45.8		
● 5年度6年生	43.5	42.8	42.8		

5. 各学校における分析

学校全体の標準スコアは国語科43.9、算数科45.7という結果であった。
国語科については、文章が読み取れておらず、問題文で何を聞かれているのか、何を答えるのかが理解できていない。
算数科においても同様の課題がある。また、基礎計算力も定着しているとは言えない。
学力の基礎となる読み・書き・計算の定着を図りつつ、授業の中に活用力をつける課題を仕組み、向上をめざす。

6. 各学校における今後の取組

○国語科における音読指導を中心に、語彙の広がり・習得を意識した授業づくりの展開の推進。
○算数科における単元ごとのレディネス・終末段階におけるプレテストで通過率を分析し、重要単元での習熟度別授業を実施。
○単元テストにおいて、80点以上の児童を学級の80%、全単元の80%を超える通過率(トリプル80)を達成を目指す。
○テーマに沿って、文字数や活用する語句などの条件を設定し、文章を書く練習を取り入れる。
○授業の導入段階で、前時の学習をふりかえる活動を設定し、本時課題を解決する見通しをもたせる。
○国語科・算数科を中心に、理由や根拠を基に自分の考えをかく活動を位置付けた授業づくりの実施。
○授業時間や家庭学習時に、積極的・有効的なICT機器を使った学習の計画。
○朝学習の時間に、家庭学習の課題解説と、複数体制での補充学習の実施。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。